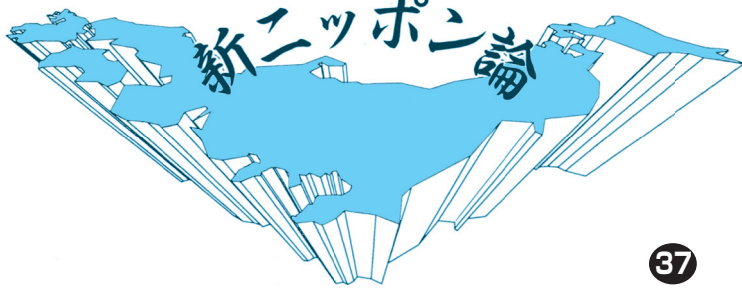


田中康夫の



37

アメリカ大統領選挙

「通奏低音」と題して当連載に寄稿したのは昨年11月号。

「人々は、グロテスクな不平等と不必要な貧困にウンザリしている。金融危機を利用して人々に過大な

と投機マネーを制御し得る、力強いフランスを私は創る」。

前者は昨秋イギリス労働党の党首に就任した67歳のジュレミー・コービン氏の、後者はフランス国民戦線党首で47歳のマリヌ・ル・ペン女史の発言です。

これを受けて僕が、「左右」を超えた、通奏低音。それは市場経済の暴走に危機感を抱く有権者の深層心理」と述べた直後の昨年11月25日、ストラスブルグのEU議会で79歳の教皇フランシスコも容赦なき警告を發しました。

「今の欧州は老け、やつれている。にも拘らず、余りに官僚主義的なEUは機能不全状態で、孤独感と向き合う高齢者、未来への指針を失った若者、都市部の多くの貧困者は不信感を抱いている」。

機能不全状態は、今秋に大統領本選挙を迎えるアメリカとして例外ではありません。「民主社会主義者」を自任する74歳のバーニー・サンダース氏が民主党予備選挙で粘り腰を見せ、「ワシントン・ポスト」「ウォール・ストリート・ジャーナル」両紙に社説で「不支持」を宣告された、6月中旬に70歳を迎えるドナルド・トランプ氏

が共和党予備選挙で破竹の勢い。

アメリカでは、「非好感度」も世論調査の項目です。3月段階のギャラップ社の調査ではトランプ候補に60%の、68歳のヒラリー・クリントン候補に52%の有権者が「否定的なイメージ」を抱いていました。因みに、拒否数値の設問を同社が92年に開始して以来、今回のトランプ候補が歴代1位、ジョージ・W・ブッシュ前大統領が2位、3位がクリントン候補です。

5月17日発表のNBCテレビではトランプ候補62%に対してクリントン候補59%と「拒否数値」が拮抗。「ニューヨーク・タイムズ」とCBSテレビが21日発表した共同調査では、実に有権者の64%が両者の「正直さや信頼感」に否定的な評価を下しています。

「保守系」メディアのFOXニュースに至っては18日、「支持率逆転」とスクープ。4月調査では48%対41%とリードしていた彼女は42%対45%と逆転され、「非好感度」も61%と過去最高。トランプ候補の56%を上回ります。

FOXニュースの以下の調査結果も衝撃的でした。彼女に代わってサンダース候補が本選挙に出馬し、

トランプ候補と対決した場合には46%対42%で、民主党に昨年入党の74歳の新参者が優勢なのです。

「近代史上、最適任の大統領候補の1人」と「ニューヨーク・タイムズ」が逸早く1月30日段階で支持を表明したクリントン候補は、いやはや前途多難。

畏友・浅田彰氏の発言を援用すれば「巨大資本の利害を代表しつつ、低学歴・低所得の白人男性を中心とする大衆をポピュリズムで煽って票を取ってきた」共和党「エリートはポピュリズムを制御出来ず」、「ブッシュ・ジュニア元大統領がニセの情報でアメリカをイラク戦争に引きずり込んだ事を批判し、高額所得者への増税を主張する」トランプ候補は「共和党が生み出した怪物」です。

而して高学歴に見合うだけの仕事と収入に恵まれぬ「ホワイトカラー」白人層は、ウォール街、製薬業界、軍需産業からの巨額献金を軍資金とする「1%」側のクリントン候補を見切っています。

とまれ、誰を当選させたいかわくなく、誰を当選させたくないかの「モグラたたき」に陥っている今回の大統領選です。

負担を与えたEUに改革が必要なのは明らかだ」。

「経済的新自由主義とはグローバル化・ボーダレス化した支配階級の空疎なイデオロギー。金融業界

★次号7月号の発行日は7月10日です。